

共同輸送・S&Aの2事業採択

■中部空港促進協、国交省補助

中部国際空港利用促進協議会が取り組む、トラックによる共同輸送と、内航船・航空輸送を組み合わせる「シー・アンド・エアー（S&A）」の2事業が、国土交通省の「地域の事業者間連携を通じた物流生産性向上推進事業」の一次公募で採択された。事業に必要な経費の一部が補助対象となる。首都圏空港などを利用している航空貨物を中部国際空港（セントレア）に取り込み、貨物取扱量の増加につなげる。

国交省資料によると、中部地域で発生する航空貨物の約8割に当たる年間約14万3000トン（トラック3万6000台相当）が、主に成田空港へ陸送されている。また、セントレア島内で通関される一般貨物の4分の3に当たる約8万5000トン（同2万1000台相当）も、主に成田へトラック輸送されているという。荷主や物流会社、航空会社と連携し、他空港を利用する貨物をセントレアに振り向ける輸送網を検討する。

共同輸送事業では、各フォワーダーが個別に首都圏空港へ陸送している貨物を集約し、複数社の貨物を積み合わせたトラックでセントレアへ輸送する。首都圏空港への長距離輸送を減らすとともに、トラックの総運行台数を削減する。

共同輸送分科会には、愛知、岐阜、

三重の3県、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部国際空港会社、名古屋陸送、南信貨物自動車に参加する。

S&A、内航船で貨物集約

S&A事業では、国内の遠隔地から首都圏空港などへトラックで陸送されている航空輸出貨物を、内航船でいったん名古屋港に集める。名古屋港からセントレアへドレージ輸送し、同空港発の国際線に接続する輸送形態を想定する。

中部国際空港会社の担当者によると、今回の事業は「輸送形態の実行性を探るための調査」だという。直ちに新たな輸送ルートを開設するものではなく、S&A輸送拠点としてのセントレアの強みを発揮するため、促進協が関係事業者の協力を得て事業化

の可能性を探る。

調査では、首都圏空港やセントレアから離れた地域を発地とする航空輸出ニーズのある荷主のほか、フォワーダー、船会社、港湾荷役会社などにヒアリングする。S&A輸送の潜在需要を把握し、運用・コスト面での実現性や、事業化に向けて解決すべき課題を確認する。

S&A分科会には、愛知、岐阜、三重の3県、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部国際空港会社のほか、太平洋フェリーとフジトランスコーポレーションが参加する。中部国際空港会社はS&Aの効果として、大量輸送によるコスト削減、長距離トラックドライバー不足への対応、災害・混雑時の代替サプライチェーン確保、二酸化炭素（CO₂）排出量削減を挙げている。